

表紙2の写真説明

水稻の風害実験

—台風の被害防止に
取り組む人達—

冷害については長年のたゆみない研究が実を結び、たとえ同じような異常な低温におそわれても昔のような大被害にはならなくなった。しかし短時間ながら気まぐれに荒れまわる台風については、残念ながら未だよい対策が樹てられていない。

東京都北区西ヶ原町にある農林省農業技術研究所(元の農林省農事試験場本場)の坪井八十二技官を中心とする人々がいまこの問題と真剣に取り組んでいる。

正門から入って左側に東西方向に建てられた異様な建物が、この台風被害を研究する農業用の大風洞である。農業上の研究のためにこれ程大きい風洞が造られたのは世界でも珍らしい。この農業用風洞は、電動機、送風機、送風筒、実験室、排気筒からなり、50馬力の電動機が直径3米の4枚羽根のプロペラを廻して、4米から24米までの風を自由に送り込むことができる。吹出口の大きさは巾、高さ共約1.8米の大きなもので、17坪の実験室に開口しており、実際の作物を運びこみ実験できるようにになっている。実験室はガラス室になっており、実験中作物が光線不足にならないように設計されている。

台風の被害といっても内容的には中々複雑である。外から作用する条件だけでなく、被害を受ける水稻自体の

条件によって同じ風を同じように受けても被害が違って来るのだそうである。例えば出穂期か生長期か或は成熟期かという水稻の生育時期によって非常に違って来るし、同じ生育時期でも水稻が丈夫に育っているか弱々しく育っているかによって被害が大変違うということが明になって来た。

「台風被害を防ぐには風を弱めること以外には手はないように考えられていましたが、これまでの研究により水稻の育ち方の違によって被害に大きい差のあることを知りました。このことは逆から考えると栽培条件によって被害を軽くすることができるのだということを示すもので、今後はこの方面の研究に力を入れようと思います」と日に夜をつぐ実験にやつれた坪井氏の顔は明るい。

ここで現在取上げられている研究は台風によって水稻の被害がどのような機構で起るのかという風害の基本問題が中心ではあるが、その結果から逆に被害を防ぐ全く新しい方法の発見に努めること、それに関連して風に強い品種はどういう性質を持たねばならないか、被害を少くするための栽培管理のやり方はどうすればよいか等の実際の対策に結び付けようと努力されている。また従来から一般にいわれている台風来襲時のいろいろな対策を科学的に検討し眞疑を確めている。さらに風と被害の基礎的な研究から、風を弱めるための防風林や防風垣を造る場合、その高さ、巾、間隔等の具体的設計に必要な資料がでてくるし、被害程度をできるだけ早期に予想すること、台風来襲後にとるべき処置等についても具体的な方法が示されるであろう。

台風を天災とあきらめないで眞向から取り組むこれらの研究の今後に期待しよう。(荒井隆夫記)

昭和30年度後半気象学会講演日程

日	時	場 所	主 要 題 目
9月23日	10時	中央气象台中村記念館	一般講演会ならびに航空気象に関する講演
9月30日	9時	〃	災害と気象に関する講演
10月17日	9時	気象研究所講堂	風に関するシンポジウム(地形と風に関する研究発表)
10月18日	9時	〃	(ジェットストリームについて、防風林について、特別講演)
〃	13時	〃	(風に関するシンポジウム)
11月9日	9時	〃	研究発表会(気象研究所報告会と共催)
11月10日	9時	〃	〃
11月11日	9時	〃	〃(以上数値予報、レーダー雷降水に関する講演も含む)
12月3日	9時	中央气象台第一会議室	気象医学に関するシンポジウムならびに一般講演

災害と気象に関する講演会

9月30日予定されている表記講演会は第1回目として「風水害」に重点をおいた研究の発表および討論を行う予定である。

風に関するシンポジウム

昨年「風に関するシンポジウム」を開きましたところ、非常に好評と成果を得ましたので、本年も下記の次第によつて第2回の「風に関するシンポジウム」を開くことになりました。よつて記の通りお知らせいたします。

研究発表希望者は 期日までにお申込み下さい。